

第3節 亀山構内の立会調査

1 教育学部附属幼稚園バレーボールコート支柱設置に伴う立会調査

調査地区 亀山構内

調査期間 平成元年 11 月 22 日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約 0.3 m²

調査結果 工事は、西側に存在するプールを新営した際に、撤去したバレーボールコートの支柱 1 本を新設するものである。工事規模は、幼稚園運動場の西側寄りの地点を 1 ヶ所、約 50 cm 四方に現地表面から約 60 cm 掘削するものである。

幼稚園運動場では、過去の調査で現地表面から 60 cm 下位に遺物包含層の可能性のある淡灰褐色粘質土が検出されている¹⁾。今回の工事による掘削は、同層におよぶおそれがあったため、立会調査を実施した。

調査地点の層序は、現地表面から 35 cm 下位に堆積する層厚 5 cm の旧運動場の真砂土をはさんで、構内造成時の埋め土が上下に観察された。先の調査で検出された旧耕作土、床土の堆積は認められず、当該地点が既設のプールに近接していることから、他の幼稚園運動場部分に比べて比較的削平が著しい地域と考えられる。

なお、工事基底面まで淡灰褐色粘質土の堆積は認められず、さらに下位に堆積しているものと考えられる。

出土遺物は皆無であった。

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「教育学部附属山口小学校・幼稚園構内の試掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅲ』、1985 年)。

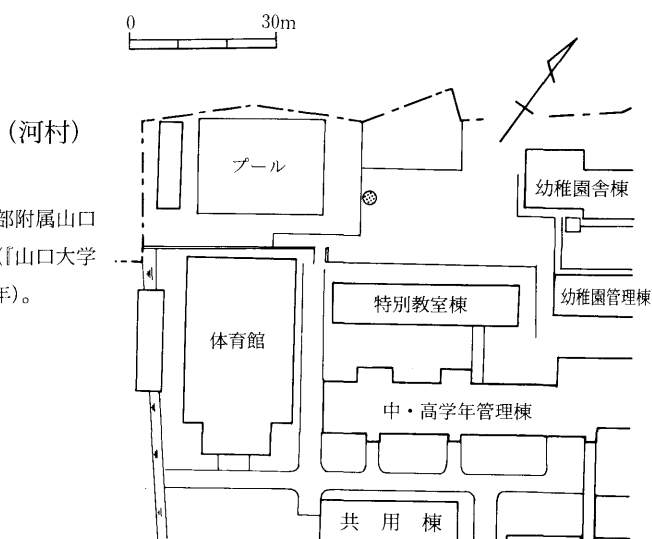


Fig. 43 調査区位置図

2 教育学部附属幼稚園・山口小学校污水排水管布設に伴う立会調査

調査地区 亀山構内

調査期間 平成2年1月8日～3月14日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約170㎡

調査結果 同構内における污水排水管布設に伴う発掘調査の成果は第3章で述べた。今回の立会調査は、試掘調査の結果を受けて、埋蔵文化財の分布が希薄と予想される工事路線について行ったもので、小学校運動場東縁で柱穴、溝状遺構を検出した。

柱穴は、南端部から約26m北側の地点に位置し、現地表面から21cm下位に存在する。オリブ黄色砂質土 (Hue5Y6/3) の地山を掘り込んでおり、上面径20cm、検出面からの深さは12cmである。遺物は出土しなかったが、埋積土が黒褐色粘質土 (Hue10YR2/3) であることから弥生時代から古墳時代のものと考えられる。

溝状遺構 (Fig. 46, PL. 25)

小学校運動場の北東縁に位置する、体育器具庫の西側で検出した。検出面は、最浅部分で現地表面から14cm下位で、東西方向に走行する。東への延長部分は、東壁の南側が攪乱を受けており完掘できなかったが、幅約5.9m以上、検出面からの深さは最深部で20cmの規模をもつ。溝底は東から西へゆるやかに下降しており、部分的に不整形な落ち込みが存在する。

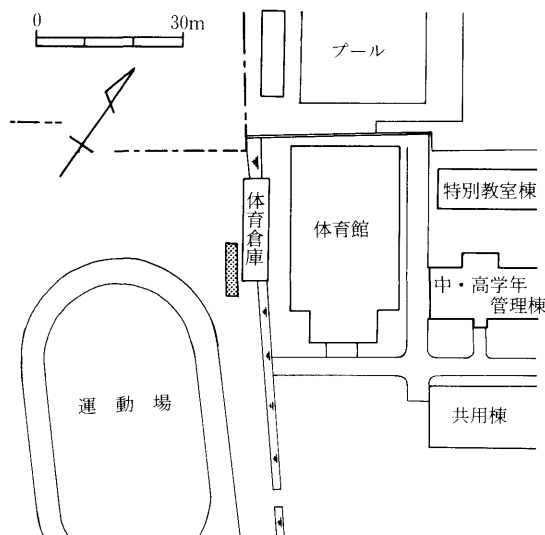


Fig. 44 調査区位置図

存在する。

埋積土は、上位から黒褐色粘質土、砂礫の2層で、遺物は両層から出土したが、前者からの出土量が多い。やや時期幅のある遺物が混在するが、主体は弥生時代後期後半～終末である。

運動場の北西縁では、昭和58年度の調査で弥生時代終末の溝状遺構を検出している。しかし、流路方向、埋積土が異なり、今回検出した溝状遺構とは別種のものである可能性が高い。

出土遺物には、弥生土器、土師器、打製石斧・削器・剝片・石核などがある。

亀山構内の立会調査

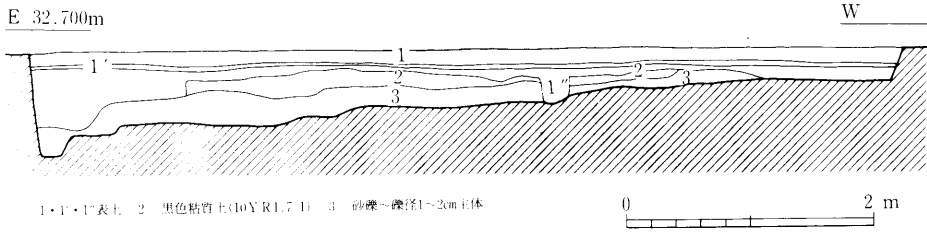


Fig. 45 土層断面実測図

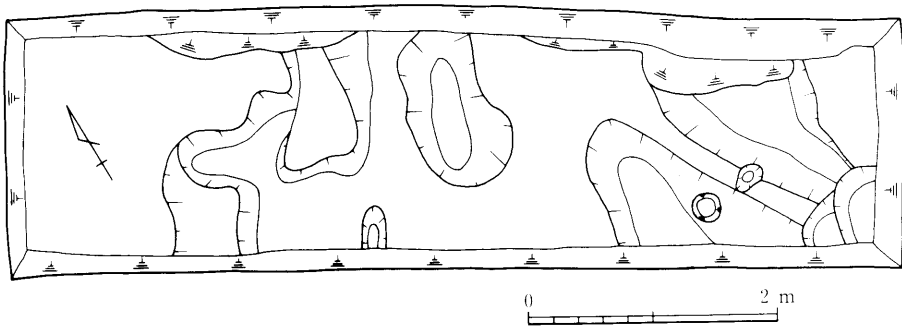


Fig. 46 溝状遺構実測図

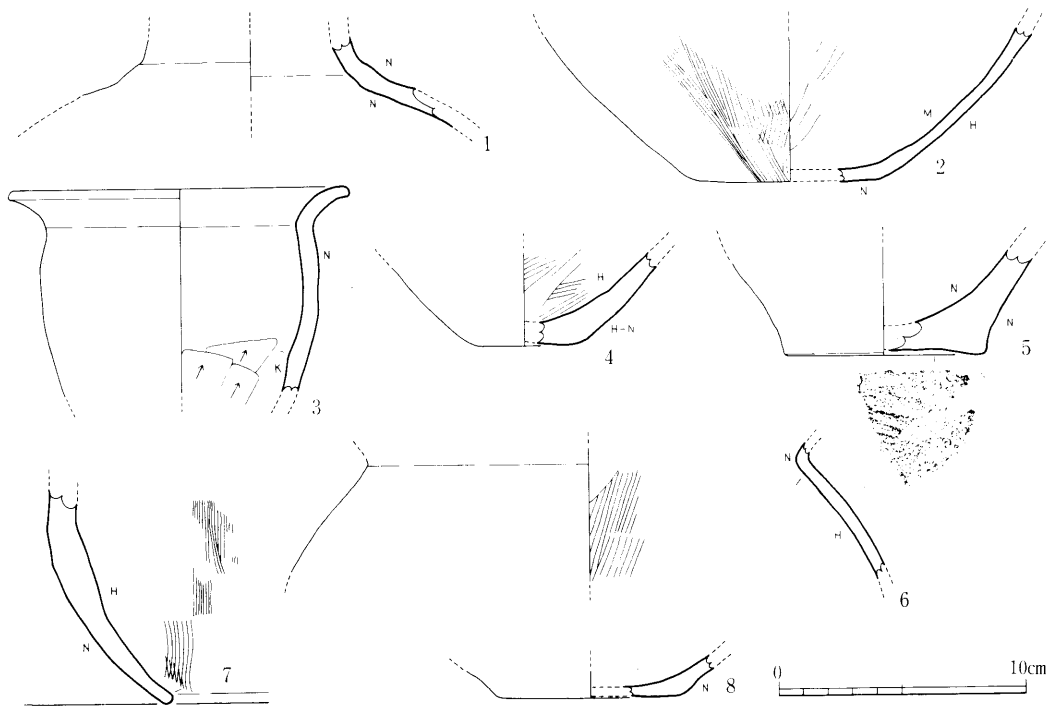


Fig. 47 出土遺物実測図(1)

平成元年度山口大学構内の立会調査

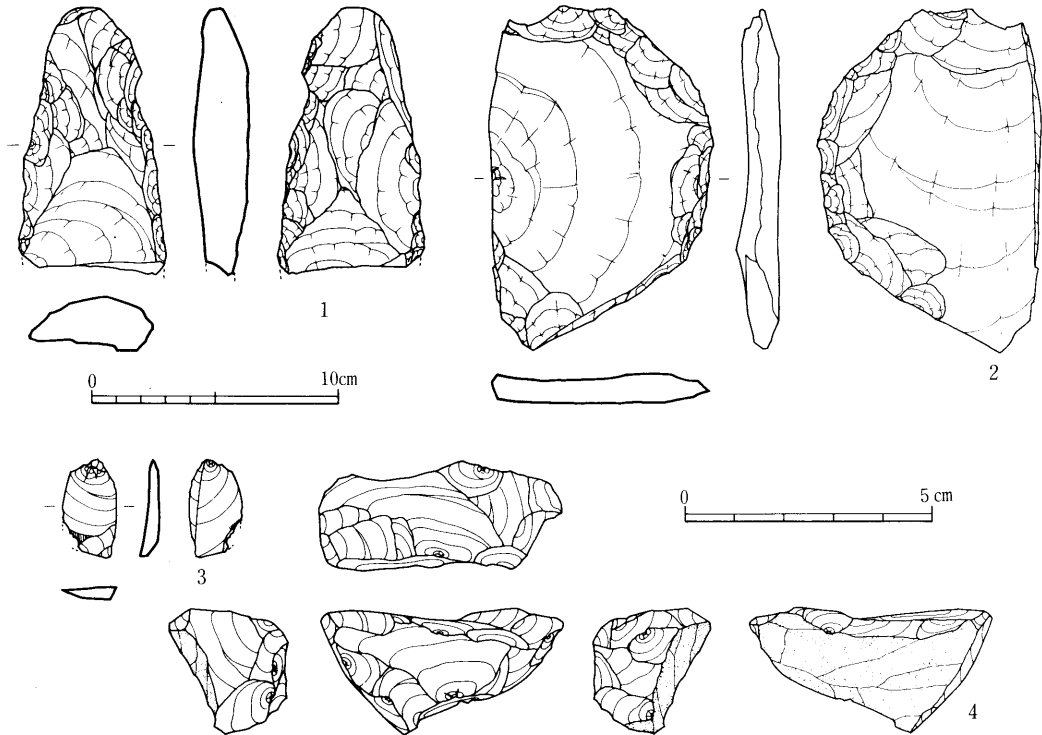


Fig. 48 出土遺物実測図(2)

Tab. 5 出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm) (①口径②底径③器高)	色調 (①外面 ②内面)		胎土	焼成	備考
			法量()は復原値				
1	弥生土器 壺		にぶい橙色 (7.5YR7/3)		良	好	
2	弥生土器 壺	②(7.4)	①灰黄褐色 (10YR6/2) ②にぶい橙色 (5YR6/4)		不	良	好
3	弥生土器 甕	①(13.4)	①にぶい橙色 (7.5YR7/3) ②にぶい黄褐色 (10YR7/3)		不	良	好
4	弥生土器 甕	②(4.2)	①にぶい褐色 (7.5YR7/3) ②浅黄褐色 (10YR8/4)		やや不良	良	好
5	弥生土器 甕	②(8.0)	①褐灰色 (10YR4/1) ②にぶい黄褐色 (10YR7/3)		やや不良	良	好
6	弥生土器 甕		①にぶい橙色 (7.5YR7/3) ②灰褐色 (7.5YR4/2)		不	良	好
7	弥生土器 高坏		①にぶい橙色 (5YR6/3) ②浅黄褐色 (10YR8/3)		やや不良	良	好
8	土師器 坏	②(8.0)	にぶい橙色 (7.5YR7/4)		良	好	好

番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	法量()は現存値	
						石質	備考
1	打製石斧	(106.5)	59.5	21.0	129.5	花崗閃緑岩	刃部欠損
2	削器	68.0	45.5	6.0	29.0	讃岐岩質安山岩	
3	剥片	19.0	11.0	2.5	0.5	腰岳産黒曜石	
4	石核	25.0	49.0	40.0	22.4	姫島産黒曜石	

出土遺物 (Fig. 47・48, PL. 26(1))

弥生土器 (Fig. 47-1~7)

1・2は壺。1は肩部で、頸部から大きく開き、複合口縁をもつものであろう。2は器壁の薄い平底の底部で、内面には幅広の粗いヘラミガキが施される。

3~6は甕。3は小形の甕で、張りのほとんどない胴部から、口縁部は外弯しながら「く」の字に短く開く。胴部内面下半はヘラ削りされる。4は不安定な平底、5は窪み底の底部。5は外底面にすのこ状の圧痕が残る。6は張りの強い胴部をもち、胴部内面は縦刷毛目仕上げされる。

7は高坏の脚部で、裾部の開きは小さく、端部は丸みをもって終わる。

1・4は砂礫層、他は黒褐色粘質土から出土。

土師器 (Fig. 47-8)

糸切り底の坏の底部で、底部と体部の境は不明瞭。上層からの混入の可能性がある。

石器(Fig. 48)

1は打製石斧で、刃部を欠損する。撥形状を呈し、基部は丸く、刃部はあまり開かないものと思われる。背腹両面とも、左右両側縁からの比較的粗雑な剝離作業によって成形を行ったのち、基部を除いた両側縁に、両側縁からの調整剝離を施す。基部よりやや下位には、ノッチ状の弯曲部が存在する。刃部側の成形は、背腹両面ともおおむね下方からの加撃による1枚の大きな剝離面によってなされる。2は削器。背腹両面から調整加工を施し、弧状の刃部を作出する。大形の盤状剝片を素材としているが、ネガ、ポジ両面の剝離方向が90°ずれている。腹面側が主要剝離面で、上端の2枚の剝離面によって、打面、バルブを除去している。背面側の打面、打点は残存しており、素材の変形度は小さい。3は縦長剝片で、下半部を若干欠損する。背面は3枚の剝離面によって構成され、ネガ、ポジ両面に打点、打面が残存する。4は石核。舟底形を呈し、背面、左右両面および上面を主な作業面としている。打面、打点は一定しておらず、各作業面を打面として、打面を転位しながら剝片剝離作業を行っている。目的剝片は、不定形な縦・横長剝片で、腹面側は原礫面を打面として、剝離作業を行う。

1・3・4は黒褐色粘質土、2は砂礫層出土。 (河村)

[注]

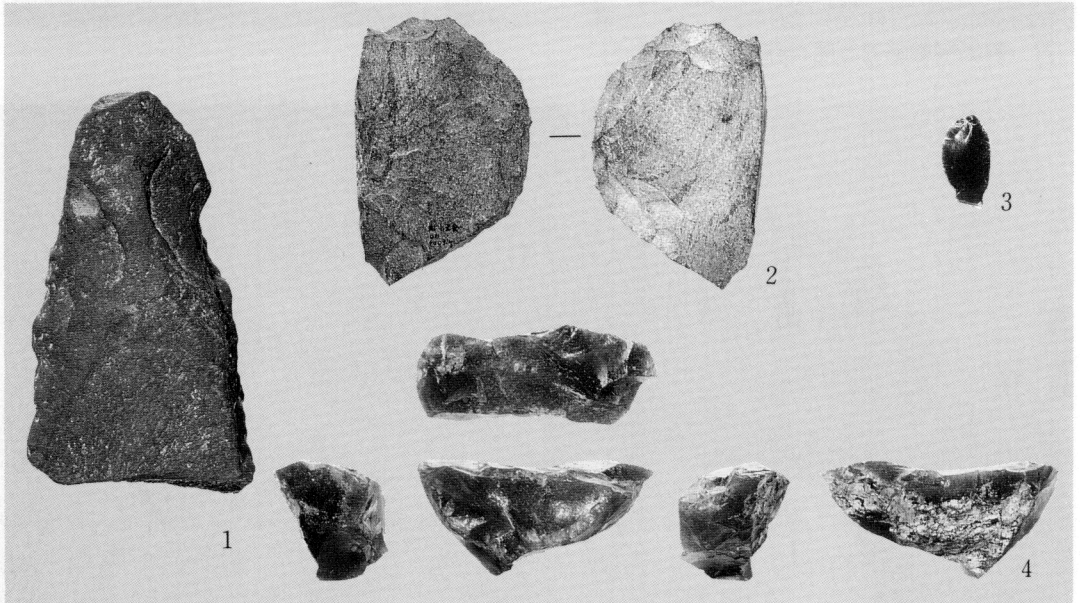
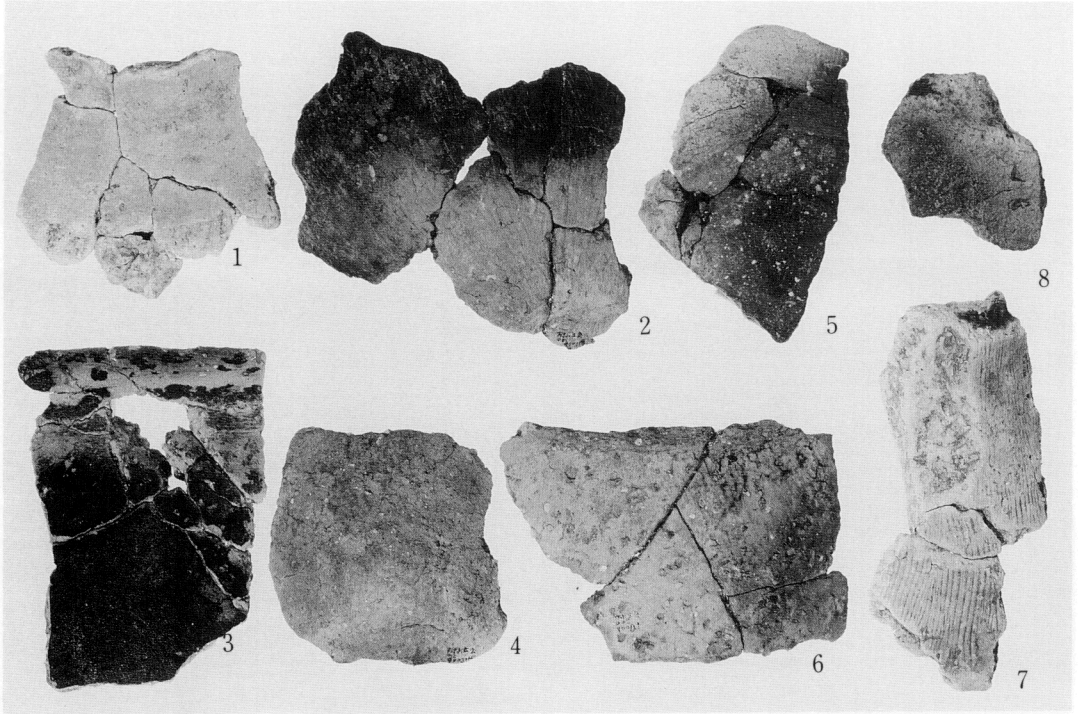
- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「教育学部附属山口小学校・幼稚園構内の試掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報III』、1985年)。



(1) 溝状遺構検出状況(北東から)

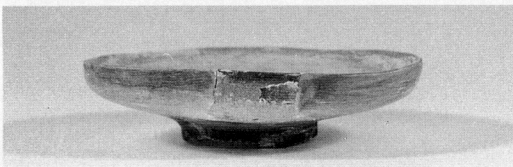


(2) 溝状遺構完掘状況(北東から)

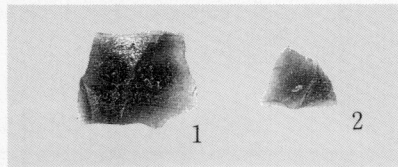


(1) 亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校
汚水排水管布設に伴う立会調査出土遺物

4 (石核)…約 2 : 3、その他…約 1 : 2



(2) 吉田構内体育施設系給水管改修に伴う
立会調査出土遺物 約 1 : 2



(3) 吉田構内吉田寮ボイラー棟地下貯油槽設備
改修に伴う立会調査出土遺物 約 2 : 3